



たまご 卵でなく、こうお う さかな なに 子魚で生まれる魚は何がいるの

ねったいぎよ 熱帯魚、ウミタナゴ、サメやエイの仲間 なかま

グッピーやソードテールをはじめとする、中央アメリカ・南アメリカに分布する熱帯魚の「たい生メダカ」の仲間が、子魚で生まれます。親の体内で卵の栄養で育ち、体の外に出るときは魚の形をしているのです。このような生まれ方を「卵たい生」といいます。グッピーは、1回に10～20匹産みます。日本近海では、ウミタナゴの仲間などの約20種類が、卵たい生です。

サメや、エイの仲間にも、卵たい生のものがあります。シーラカンスも、卵たい生です。

おや 親からのえいようほきゅう 栄養補給

ウミタナゴでは、卵巣のかべの一部が「たいばん」（母体から赤ちゃんに栄養を送るしくみ）の役目をし、卵巣の中の子どもも、一時期「大きなひれ」ができ、ひれの表面で親からの栄養を吸収します。卵たい生ですが、親からの栄養ももらっているというわけです。

サメやエイの仲間では、種類によっては、親からの栄養の補給がもっと進みます。シロザメのように、ほ乳動物とほとんど同じように、親から栄養をもらっているものもいます。

貝類ではタニシ、ヘビではマムシが卵たい生です。これらは、卵がじゅうぶんな栄養をもっています。親の体内で、親から栄養をもらっていません。

にゅうるい ほ乳類でも、たまご 卵を産む う

オーストラリアにしかないカモノハシは、ほ乳類です。しかし、卵を産みます。卵から生まれた赤ちゃんは、母親のおなかの表面ににじみ出る、汗のようなお乳を飲んで育ちます。動物の進化から見ると、卵を産む動物と、ほ乳動物のちょうど中間ぐらいになる動物です。（監修・杉浦 宏）

